



## 主な研究手法

**1 文献調査** 本、論文、報告書、手紙、新聞、雑誌などの文書や記録を用いる。

(1)文献調査の目的

- ・その課題に対して、どこまで研究や対策が進んでいるかを知る。
- ・これまでの記録や書物を分析して、リサーチクエスチョンの答えを明らかにする。

(2)文献調査のメリット

- ・盛んに研究・議論がされている研究テーマであれば、資料が豊富にある
- ・文献があれば、アンケートやインタビューをしなくてもデータ収集ができる

(3)気をつけるべきこと

- ・使用する文献が書かれた目的や種類を把握しなければ偏った情報のみを取得してしまう可能性がある。
- ・新聞社や出版社はそれぞれ異なる個性や政治的主張を持つので、1社だけの情報から答えを導き出すことは、偏った結果を生む。

(4)文献調査の手法

- ①新聞や雑誌の見出しを数えて傾向を読み取る
- ②文献を構成するキーワード・要素を抜き出す
- ③時代や社会の変化による解釈の変化に注目する
- ④②で抜き出した要素・キーワードを図解・整理する
- ⑤過去の実験で得られた数値データに着目する

**2 アンケート調査** 多数へ調査ができ、多くの結果が得やすい。(満足度、割合)

(1)アンケート調査を行うための準備

When?	・いつ行うか?                      ・いつアンケートフォームを届け、いつ回収するか?
Who?	○だれがどの役割を行うか?
Where?	○どこの地域が調査対象か?
Why?	○アンケート調査の目的・ねらいは何か?                      ○何を知りたいのか?
How?	○どのようなアンケート調査を行うか? ・記名か無記名か                      ・設問方式(選択式/自由記述式) ・どのようにアンケートを依頼するか?                      ・アンケートの分析方法
What?	○上記の調査目標をもとに、知りたい項目に整理する。(2)を参照

## (2)アンケートフォーム作成時の注意点

- ・ 質問以外の必要なことを明記する  
調査名称／調査を行っている団体名・連絡先・回答記入時の注意事項／回答者への謝辞
- ・ アンケート調査で明らかにしたい内容と各質問事項を結びつける
- ・ 1つの質問に論点は1つ

例1) あなたは、過疎化や少子高齢化に関心がありますか？

→ 過疎化と少子高齢化は別の問題であり、原因も背景も違う。どちらについてどの程度答えればよいか回答者は困惑してしまうので、質問を2つに分け、論点を整理しよう。

例2) あなたは、防犯上の理由から小学生の集団登下校が必要だと思いませんか？

1. 必要である 2. 必要でない

→ この場合、防犯上の理由以外で集団登下校が必要だと思っている回答者は答えることができない

- ・ 定義のあいまいな言葉を使わない。

例) あなたは、政治問題に関心がありますか？ありませんか？ / 1. 関心がある 2. 関心がない

→ 何について聞きたいのか、質問は可能な限り具体的に

- ・ 先入観のある言葉の使用や誘導を避ける。

例1) あなたは、官僚の天下りについてどう思いますか？

→ 「官僚」という言葉は正式な法律用語ではなく、定義があいまい。また、官僚の天下りという言葉は、ニュースなどで否定的な印象とともに使われ、先入観が大きく影響する

**お手本**…あなたは、国家公務員が民間企業や外部団体の要職に再就職することについてどのように思いますか？

例2) 地方部は就職口もなく、若年層の流出が続いていると言われていますが、あなたはどこで就職したいですか？

→ 下線部分が明らかに回答の誘導をしている。

**お手本**…あなたは、将来どこで就職したいと思いませんか？その理由とともにお答えください。

### 3 インタビュー調査 個人の会話より結果が得られる。(体験談、エピソード)

- (1)インタビューの目的を確認する
- (2)インタビューのための情報整理

- ・ なぜこの対象者に聞かなければならないのか
- ・ 目的達成のために、具体的に聞かなければならない項目
- ・ 事前に準備するもの (マイク、メモ帳)

- (3)インタビュー調査における注意点

- ・ プライバシーの保護
- ・ 「何を聞くか」を明確に (「とりあえず話を聞けば何かわかるだろう」はNG)
- ・ 記録を忘れない

・聞く姿勢

## (4) アンケート調査とインタビュー調査の比較

	アンケート調査	インタビュー調査
特徴	多数への調査が行われる	1対1、面接・対話で行われる
長所	<ul style="list-style-type: none"> <li>一度に多くの人から意見を集められるので、定量的な調査ができる</li> <li>回答の記録が取りやすいので、振り返りを行うことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インタビュー中に新たな発見があり、質問項目を変えたい場合でも柔軟に対応することができる</li> <li>調査対象者の心の中にしか記録されていない内容を知ることができる</li> </ul>
短所	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートフォームの書き方によって、質問の意図が正しく伝わらずに回答される可能性がある。</li> <li>結果を分析する知識が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>求めている回答に誘導する可能性がある</li> <li>記録をしっかりとらなければ分析が難しい</li> </ul>
使用例	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共サービスの満足度調査</li> <li>内閣支持率調査</li> <li>高校生の進路調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災体験</li> <li>印象・感想調査</li> <li>生い立ちやエピソード</li> <li>感情や価値観の変化について</li> </ul>

## 4 参与観察 組織やグループに参加し、実際に体験する。(仕事、ボランティア)

## リサーチクエスチョンと参与観察の例

- ・〇〇地区の神楽の伝承はどのような形で行われているのか？  
→ 〇〇地区の神楽の携わっている方のもとで、その活動を手伝い、伝承方法を知る。
- ・なぜ〇〇地区における介護離職率が高いのか？  
→ 〇〇地区の介護施設で、介護の仕事に従事者とともに体験することで、その原因に迫る。

(1) 調査項目の設定 (観察すべき点を項目化する)

(2) 調査項目の事前学習 (文献調査やインタビュー調査で十分な場合、参与観察は必要ない)

## 5 実験 実験装置や被験者などを確保しデータを得る。

- ・リサーチクエスチョンに対して仮説を立て、考えた理論が正しいか確認するために行う。
- ・実験の準備

- ・リサーチクエスチョンの答えを明らかにするために、どのような実験が必要か？
- ・検証したい仮説や理論は何か？
- ・実験の手順
- ・実験にかかわるリスク管理について

## ◆研究手法のチェックリスト◆

- 実行可能な研究手法か？
- 調査後の分析方法は示されているか？